

平成 25 年度第 1 回射水市少子化対策推進委員会幼稚園部会 会議録

- ・ 日時 平成 26 年 1 月 28 日(火) 午後 7 時 00 分～8 時 30 分
- ・ 場所 射水市役所下庁舎 201 会議室
出席者 委員： 石津孝治、山崎京子、前手政幸、上田雅裕、宮田やす子、泉田淳也、
矢野潤、川邑久枝、山本由美子、焼田充弘、川尻尚栄、矢後昭男、
宮垣純吉、関原義彦

順不同敬称略

事務局 : 13 名

1 開会

2 あいさつ

射水市教育委員会 結城教育長

3 委員及び事務局職員の紹介

4 部会長、副部会長選出

部会長に石津委員、副部会長に山崎委員を選出

5 議事

(1) 幼稚園部会の設置について (説明資料 1)

事務局より説明

(2) 子ども・子育て支援新制度関連

子ども・子育て支援新制度について (説明資料 2)

認定こども園、幼稚園、保育園の概要 (比較) について (説明資料 3)

事務局より説明

(3) 公立幼稚園の現状等について (説明資料 4)

地区別幼稚園・保育園一覧

本江幼稚園、七美幼稚園、大門わかば幼稚園の園児数の推移

本江地区、七美地区、大門地区の未就学児数の推計

幼稚園教育の取組 (要覧)

幼稚園の規模によるメリット・デメリット

事務局より説明

(4) 今後のスケジュールについて (説明資料 5)

事務局より説明

(委員)

スケジュールについて最終的には、どの時点でこうだというのは大体決まっているのか。

(事務局)

26 年度を目途にこの部会として報告書を作りたいと思っている。

(委員)

内容によっては地元の問題をこの出席者だけで判断しかねる部分がある。スケジュールは必要だが、時には地域への説明会が出てくることも想定できるが、どう考えているのか。

(事務局)

この部会である程度の方向性を見出していただいて、その経過経緯について地域の方で報告していただきたいと思う。最終的な方向性がまとまった時点で、市の方から地域への説明が必要になってくると思う。

(部会長)

6 回の部会の中で、公立幼稚園の具体的なあり方の結論を出すということによろしいか。

(事務局)

そうです、報告書という形でまとめたい。

(委員)

部会で方向性が出たら、そのあとの進め方はどのように考えているのか。

(事務局)

地元への説明会を開催していく。

(部会長)

部会の結論はどこへ挙げられるのか。

(事務局)

諮問機関ではないので、方向性を出していただいて、市長あるいは議会に示しながら、地域の方にも広報しながら理解を求めていきたい。

(委員)

地元と十分に整合性をとった進め方でまとめていただかないと困る。

(部会長)

結論としては、射水市からの十分な説明をお願いをするというような格好になる。

(5) その他

(部会長)

そのほか何かご質問はあるか。

(委員)

射水市行財政改革集中改革プランの方向性を、実際この部会にあてはめた時に具体的にどうなるのかわからない。費用の面だとかいろいろでてくるが、実際ピンとこない。その辺りの説明がこれから出てくるのだと思うが。

(事務局)

先ほど冒頭にも申し上げたように、国の動きとしても認定こども園化という方向性にある。市としても国の方向性に合わせた形でもっていききたい。

(委員)

一般論として聞いていただきたい。子どもがとにかく減っているという地域の状況がある。しかし保育所は0才から入れるので、3歳になったから幼稚園へ入ってくださいといっても入ってくる子どもがいない。これは本江、七美幼稚園だけの問題ではなく全てである。そんな中でさあどうするかということで今度の法律は、子どもは減っている中で保育も教育もしっかりしなければならない、すると施設も守らなければならない。守るというのは、幼稚園を認定こども園にして地域で守るのか、もっと減ったら近くで合併して守るのかそれはわからないが、幼児教育と保育を受ける場所を地域地域で守りましょうということが今度の制度だと思っている。この公立問題は、その地区地区の事情を考えながら、合併するのかどうするのかは今後の話ということになるが、それは地域の話とみなさんのご意見だと思う。でも子どもが減っていて、特に今度の制度は幼稚園が大変である。

(部会長)

特に民間さんは経営も大変だと思うが、今言っていた合併にするのか子ども園化するのかというご指摘だが、まさにここで話し合っていかなければならない、射水市の実情に合わせて話し合っていたいただきたいと思う。

(委員)

保護者の会長として心配な点がある。射水市行財政改革集中改革プランの取組項目が先ほど読み上げられたが、この6回の部会の中で検討していった大体来年の3月に方向性が出て、そこから住民への説明が始まるということだが、その時点ではもう決まった状態ということになるのか。そこから地域が動く、保護者会が動くというのではもう遅いという段階になるのか。園に持ち帰ってみなさんに投げかけるときにもう今の時点から動かなければならないのか、それともこの部会で出た意見を持ってしてそういう話を出して、保護者会が違った意見が出てきたら、この部会で出た結論が覆ることがあるのかどうか心配だ。

(事務局)

ご心配なされるのはごもっともだと思うが、あくまでも部会ということで、射水市にとって公立幼稚園のあり方の方向性を出していただくということで、それをもって地元の説明させていただいて、地元のみなさんのご理解を得ながらやっていかないと地元になんて納得していただけないと思っている。この部会で出された方向性は、住民への説明責任を果たしていく必要があると思っている。当然住民のご意向あるいは市長の考えもある、議会の議論も出てくると思っている、総合的に勘案して方向性を決定していきたい。

(部会長)

この方向性イコール市の決定ではないということか。

(事務局)

これをもって住民のみなさんと相談をするということになる。当然こういった専門の方がたくさん入っておられる中での方向性なので、それは尊重していくべきであろうと思っている。最終的には地元のみなさん、保護者のみなさんのご理解を得ていく必要がある。

(委員)

何が一番心配かという、幼稚園がなくなるということが一番心配。

(事務局)

住民にとって公立幼稚園がなくなるといった危惧があるということだが、子どもたちにとってどういった形態がいいのかといったことを考えていかなければならない。そのためにこの中で議論をしていただくということである。

(委員)

幼稚園、保育園は地域と密着している。先ほど一般論と言ったが、いろんな生きる道があるのでここで話していかなければならないと思っている。だから最初から幼稚園がなくなるという話ではなく、合併もあればそこで生き残る道がある、それをどうするか。ただ、今制度が変わるので、その制度を使っていかなければならない。

(部会長)

先ほど園長が要覧の中で説明されたように、地域の中で育っていく、それは保護者の方も実感されているんだと思う。一方、その制度にどのように対応していくかということだと思う。

あと5回しかないのもっといろんな観点から発言していただきたい。

(事務局)

スケジュール的に6回となっているが、これは臨機応変に対応していきたい。

(部会長)

必要に応じて回数が増えるということもご承知おきいただきたい。

(委員)

会合の案内はなるべく早く出していただきたい。大事な話なので欠席したくない。

(事務局)

なるべく早くご案内する。

以上